

名、会長賞 2 名、優秀論文賞 6 篇、優秀演題賞 7 であった。

#### ◇ 財政経理部

16. 平成 21 年 9 月 30 日現在の収支状況は、当初予算額に対して、収入の部では会費収入が 99.1%、支出の部では事業費 32.2%、管理費 32.6%、支出合計では 37.0%の比率となっている。

また、新規並びに重点事業に対し補正予算を組み対応した。

1) 精度保障(標準化)事業

2) 国民医療向上・安全対策事業

3) 渉外事業

4) 組織対策事業

5) 学術技術振興事業

17. 以下の項目について、各地区並びに各都道府県技師会へ助成を行った。

・平成 21 年度地区会議、地区学術活動、地区学会補助金

・国民医療助成金(廃止：総委委任状回収委託料・技師会業務<施設資料郵送助成金を含む>)

・AED(自動体外式診断除細動装置)講習会開催

・生涯教育研修制度

・検査研究部門研修会

・日臨技共催公益事業(健康まつり、がん・AIDS 等)

18. 効率的な財務運営の推進として、継続会員の前納の確保のため、会員カードの見直し、会費等の納入に関する自動引き落とし制度について検討を行った。

19. 会費未納者対策として、平成 21 年度会費及び入会金の未納に対して、地区担当理事を通して都道府県技師会長に会費納入を依頼した。

#### ◇ 組織制度部

20. 公益認定の申請準備として、定款・諸規程検討委員会において「定款・諸規定」の検討を行った。

21. 健康増進普及啓発事業としては、(1) 世界医学検査デー・臨床検査普及月間における臨床検査の啓発活動を、平成 21 年 4 月 11 日(土)～17 日(金)に全国 30 会場にて、大型街頭 VISION を使用して生活習慣病啓発映像を放映した。

(2) がん征圧、乳がん撲滅に関して、平成 21 年 9 月・10 月に、30 万円を 36 都道府県技師会に事業委託し啓発事業を実施した。(3) 世界糖尿病デーにおける臨床検査技師による糖尿病予防フォーラムを、世界糖尿病デー・11 月 14 日の趣旨に賛同し公益事業の一環として、平成 21 年 11 月 15 日(日)、国民を対象に東京、大阪において“臨床検査技師による糖尿病予防フォーラム”を開催した。

(4) 世界エイズデーにおけるエイズ・STI 予防に関する事業として、エイズ予防啓発ポスター、小型リーフレットを作成し各都道府県技師会に送付し、会員所属施設並びに学校、公共施設、関係団体等への配布と掲示を依頼した。また、平成 21

年 11 月 28 日(土)～同年 12 月に、30 万円を 43 都道府県技師会に事業委託し、啓発ポスター、啓発ティッシュを配布、啓発事業の実施および健康祭り等へ参画した。(5) 生活習慣病予防啓発に関する事業として、平成 22 年 2 月に、30 万円を 25 都道府県技師会に事業委託し啓発事業を実施した。

22. 感染症の予防および撲滅に向けて、「新型インフルエンザ対策緊急研修会」を平成 21 年 9 月 6 日(日)に開催した。

23. 公益事業に限定した「日臨技と各都道府県技師会共催事業」として 24 都道府県技師会、35 事業を認定し費用支出を行った。大阪、北海道、岐阜、青森、富山、京都、鳥取(2)、秋田、宮城、新潟、群馬、神奈川、千葉、静岡、兵庫、和歌山、広島、山口、愛媛、香川、福岡、宮崎、長崎、熊本

24. AED に関する実技講習会 AED 実技講習会を開催し 7 都道府県技師会に助成を行った。北海道、埼玉、東京、島根、福岡、長崎、宮崎

25. 医療安全に関する資質の向上及び管理者を目指す会員の実践を目的に研修会を、平成 22 年 1 月 22 日(金)に実施した。

#### ◇ 情報調査部

26. 組織対策について各種アンケートの分析やそれを基にした企画を行い、情報組織としての一元化を図った。

また、検査技師養成課程カリキュラムを踏まえ、臨床現場の検査技師、情報教育担当、大学大学院生をターゲットにした「検査技師のための情報技術ガイド」を作成中である。さらに、デジタルデバインド解消の一環としてデータベース活用スキルアップ研修会を本年度中に開催する予定であったが、会場の都合により次年度早々に開催することとした。

27. 国民のための検査に関する安全と安心に関する情報をホームページのマイナーチェンジを随時実施し、発信基地としての役割に努力した。

28. 技術熟練者による技術指導に e-ラーニングの導入を検討するため、e-ラーニング推進委員会を設置し具体的な内容の検討に入った。

#### ◇ 精度保障事業部

29. 臨床検査精度管理調査は、輸血検査の血液型検査に加え、昨年度までオプション項目であったヘモグロビン A1c、微生物検査塗抹検査の 3 つを基本項目に追加し、診療報酬点数改訂に伴う検体検査管理加算に対応できるよう実施した。参加施設数：3,558 施設。調査結果回答方法は、Web：2,185 施設(61.4%：前年度 44.5%)、FD：1,373 施設(38.6%：前年度 55.5%)であった。評価方法は、評価対象問題には○、△、×の評価を行った。

30. 臨床検査データ標準化事業は、2 年目となる昨年度から 47 都道府県技師会全てが参加し、最終年度である本年はそれ

に加え衛生検査登録所 6 施設の参加を得、合計 171 基幹施設と検査値標準化ワーキンググループが連携を取り標準化を推進した。また、全国都道府県の基幹施設を中心に標準化が検証された施設による基準範囲設定事業を進めた。

31. 臨床検査データ標準化および臨床検査精度管理調査のデータ処理システム再構築のための仕様を作成し、構築に向け作業を進めた。

#### ◇ 学術事業部(生涯教育)

32. 検査研究部門研修会は、生物化学分析部門を 4 回、生理機能検査部門を 5 回、形態検査部門を 4 回、感染制御検査部門を 3 回、移植検査部門を 2 回、総合管理部門を 1 回開催した。

33. 日臨技奨励研究として、特別研究 2 題、助成研究 1 題、プロジェクト研究 1 題を承認した。

34. 一般教育研修課程の平成 20 年度の修了証書を 4,885 名に発行した。

35. 医療研修推進財団主催の実習指導者等講習会に協力し、臨床検査技師の資質の向上を図った。

《東地区》平成 21 年 10 月 15 日(木)～17 日(土)、参加者数：88 名

《西地区》平成 21 年 12 月 10 日(木)～12 日(土)、参加者数：79 名

36. 第 58 回日本医学検査学会を、平成 21 年 7 月 30 日(木)～8 月 1 日(土)、横浜市で開催した。学会入場者数は 3,538 名、展示入場者数は 36,024 名であった。

37. 第 59 回学会(和歌山県)、第 60 回学会(長野県)に関連する部会を開催した。

38. 第 61 回日本医学検査学会の担当県として三重県技師会から立候補届けを受理した。

39. 平成 21 年度各地区学会を以下のとおり開催した。

1) 第 84 回 北海道医学検査学会：平成 21 年 10 月 17 日(土)・18 日(日)、参加者：451 名

2) 第 50 回 東北医学検査学会：平成 21 年 10 月 31 日(土)・11 月 1 日(日)、参加者：672 名

3) 第 46 回 関東甲信地区医学検査学会：平成 22 年 2 月 6 日(土)・7 日(日)、参加者：1051 名

4) 第 48 回 中部医学検査学会：平成 21 年 11 月 7 日(土)・8 日(日)、参加者：802 名

5) 第 49 回 近畿医学検査学会：平成 21 年 11 月 28 日(土)・29 日(日)、参加者：1,842 名

6) 第 42 回 中国四国医学検査学会：平成 21 年 10 月 31 日(土)・11 月 1 日(日)、参加者：1,418 名

7) 第 44 回 九州医学検査学会：平成 21 年 10 月 10 日(土)・11 日(日)、参加者：1,157 名

#### ◇ 学術事業部(渉外・各種認定)

40. 認定心電検査技師制度認定試験を平成 21 年 10 月 25 日(日)に、認定一般検査